



# (財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター理事長賞

講評： 地元で長く設計事務所を運営する設計者の、自邸の増改築である。この家のリフォーム上の大きな特徴、効果は外観にある。増築部分は緩いヴォールト屋根と黒い角波鋼板の壁とし、既存部分は、町並みから浮かさないよう切妻屋根の形状を残して、軒のやや下側まで銀色の角波鋼板を張り上げている。表と裏とでシャープなコントラストを生みつつも、結果として既存の町並みに違和感なく納まっている。これは設計者のデザイン能力の高さを示すものである。大きな開口面もこの住宅の個性を増幅・表出しているようである。夜は遠くからも内部の電球色の明かりが見え、シンボル性も強い。

内部は、北欧製の家具や照明に合うすっきりしたデザインで、厚さ30mmの地場産杉板の床、シナ合板張りの壁と天井により構成されている。特に節無し床板は、白身赤身の使い分けも周到に行われているが、それ以上に素足で歩きたくなるほど心地よい肌触りで、この家の安らぐ感じを決定付けているようである。1階のプランは、階段の位置を移すなど時間をかけて計画され、これ以上は変えにくいほどの内容に詰められている。大きなスリガラスの入った建具が、内部を明るく開放的に見せながら、プライバシー空間をさり気なく仕切っており、堅実な住宅空間に仕上がっている。建具に顕著に見られる施工の質の高さは、この家の品格を高めている大きな要因でもある。

構造体には、それほど歪みや腐朽はなかったようであるが、解体は時間をかけて行うなど、リフォームの要点もきちんと押えられている。

またオール電化住宅というのも、もうひとつの大きな特徴で、安全性も考慮すれば、都市ガスが来ていない地域のひとつの方法論としてうなずけるものがある。夜間電力をきめ細かく使い分け、光熱費は大きく抑えられている。

外構もすっきりとして、開放的な地域性のためか雨戸や閉鎖的な塀はなく、透きの多い最小限の塀が内外相互の視線をほどよくコントロールしている。

一般的に設計者の自邸には、設計上の試行的冒険も多く含まれているものであるが、本作品ではそれらが抑制され、大人っぽいデザインになっている。来客からもこうしたデザイン姿勢は評価されているとのことである。温熱環境のとらえ方にやや設計の詰めの甘さを感じられるものの、リフォームによって全体の空間バランスは非常に良くなっている。

設計者は、普段から地場材料の活用のため積極的に活動しているが、地道な努力を結晶させた本作品によって、「地方のリフォーム」の一つのあるべき姿を爽やかに示すことに成功したと判断できる。(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター理事長賞に推薦するゆえんである。



リフォーム前後の写真



リフォーム前



リフォームの動機 / 設計・施工の工夫点 / 施主の感想 など

外部と内部が劇的に対応する住宅です。

外部は、ステンレス板葺きの屋根、アルミ板角波貼りと、しっくい塗りの外壁仕上げです。又、内部は杉板貼(30mm)の床、桐合板しなごうはんの内壁、桐合板の天井となっています。このような無機質な外観と、木の香りのする暖かみのある内部空間が混在した、なぜかほっとする空間になりました。

既存部分も、水廻りをリニューアルし、オール電化を図りました。

特に配慮した住宅性能など：耐震補強 省エネルギー バリアフリー 住む人の健康 その他（ ）

データ

所在地	島根県大田市	構造 / 築後年数	木造 / 30年
該当工事面積	35.12 m <sup>2</sup>	該当部分工事費	700万円
居住者構成	4人 (大人 15歳以上)	3人 子供	1人 (人) ベット
設計者	(株)三谷設計	担当者	渡邊 元文
施工者	渡辺建築	担当者	渡辺 岩雄

リフォーム前

リフォーム後

